

講義名称	民法Ⅱ	担当教員名	小板橋 信二
科目群	社会科学 (SOC)		
科目区分等	法律 CA7 DI5	単 位	2
対象学年次	1年・秋学期	ナンバリング	SOC134

授業のキーワード	財産権、物権、債権、金融法務
授業の概要	お金は経済活動の潤滑油とたとえられ、市民生活に大きな影響を与える。お金にかかわる金融法務の基本ルールとなるのが民法である。民法の中でも、金融に関する規定である「財産法」を中心とした理解を目指す。
期待される学習成果 (目標)	1. 金融に関する規定である財産法の基礎的な用語・制度を理解できる。 2. 金融トラブルに対し合理的に判断する知識を理解できる。 3. ビジネスで必要とされる民法の法律的な常識を身に付けることができる。

授業展開		
回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	民法は市民社会の中での金融法
2	財産法の概念	お金にかかわるトラブルを合理的に解決する
3	物権①	物権のしくみ、物に対する権利の総称が物権 (占有権、所有権、用益物権)
4	物権②	担保物権 (留置権、先取特権、質権、抵当権)
5	債権①	債権と物権の違い、債権の目的、債権の種類
6	債権②	債務不履行、債権者代位権、詐害行為取消権、債権の消滅理由
7	債権③	分割債権・債務、不可分債権・債務、連帯債務
8	債権④	保証債務
9	債権⑤	債権の譲渡と債務の引受け
10	契約①	契約の成立、契約の効力、契約の解除、定型約款
11	契約②	事務管理、不当利得、不法行為
12	契約③	典型契約 (贈与、売買、消費貸借、賃貸借、請負、委任、その他の典型契約)
13	事例で考える①	買った土地が二重に譲渡されていたら？ 債権を第三者に行使できる場合って？
14	事例で考える②	債権を譲渡することもできる？ 従業員が会社のトラックで事故を起こしたら？
15	事例で考える③	金融トラブルを法律的な見地で考える

定期試験	講義で取り上げた内容の中から、短答式問題を中心に出題する。
授業時間外学習	(予習) 事前に配布するプリントの該当箇所を読み、分からない漢字や用語を調べる。60分
評価方法	期末試験70%、課題・授業貢献度30%
使用する教科書 (必ず購入してください)	尾崎哲夫『はじめての債権総論 (第10版)』自由国民社
参考文献	尾崎哲夫『はじめての債権各論 (第9版)』自由国民社 尾崎哲夫『はじめての物件法 (第9版)』自由国民社